

修道少女アリア

奪われた純血



世界を恐怖に陥れた  
魔王インビジブルが  
封印され千年

魔王の加護を失った  
魔物達は身を潜め  
人々は穏やかな  
生活を営んでいた

しかし  
時と共に魔王の  
封印は弱まり

魔物達は次第に  
力を取り戻し

再び人々を  
恐怖に陥れて  
いた

魔物達を倒し  
世界に平和をもたらす  
ために必要なのは

かつて  
魔王を封印した勇者  
ファフナーの復活

勇者復活の  
鍵を握るのは…

勇者の末裔？

修道見習い  
アリア

私がですか？

そうだよ

まさか長年  
探していた  
勇者の末裔が

こんな身近に  
いたなんて

私も驚いたよ

君自身  
信じられないかも  
しれないが

君のその瞳の奥に  
浮かぶ天の刻印は  
勇者の末裔である証

魔王の封印が  
弱まり魔族達が  
力を取り戻し  
始めている今

我々は一刻も早く  
伝説の勇者を復活  
させなくては  
ならない

見えてきたよ

あれが勇者の  
眠る遺跡だ

そのためには  
君の協力が  
必要だ

どうか我々に  
力を貸して  
おくれ

はい

アリア  
祭壇の  
中央を  
ご覧

あれが  
勇者  
ファフナーが  
封印  
されている  
剣だ

剣  
つて…

え…

あれは  
まるで…

勇者  
ファフナー  
の復活に  
必要な  
のは

その  
末裔の  
純血…

つまり

君の  
処女だ

この  
マラに  
君の  
純血を  
捧げる  
ことで

勇者  
ファフナーは  
蘇る



憎き魔族を  
討ち滅ぼし

人類の平和の  
ためなら

人類に平和を  
もたらすため  
力を貸してくれ  
ないだろうか

私は喜んで  
この身を捧げます

はい



アリア…

ありがとう

感謝するよ



でもこれはみんなの笑顔のため…

いざとなるとやっぱり怖いな…

きつと私はこの時のために生まれてきたんだ



オナニーだよ

もしかして君はオナニーをしたことがないのかい？



挿入する前にちゃんと準備をしないと

そのままではおまんこが裂けてしまうよ

何をすればいいんですか？



ちよつと待ちなさい

君はいきなり挿入する気かい

そのおまんこを  
いじって  
自分で自分を  
慰めるんだよ

っ  
自分でなんて  
そんな

うんうん  
とても綺麗な  
おまんこだね

あほ  
く

そうか

自分でするのになら  
抵抗があるのなら  
私がしてあげよう

じつと  
していなさい

大丈夫  
何も怖い事は  
ないからね

はい...

どれ...

ちやうど

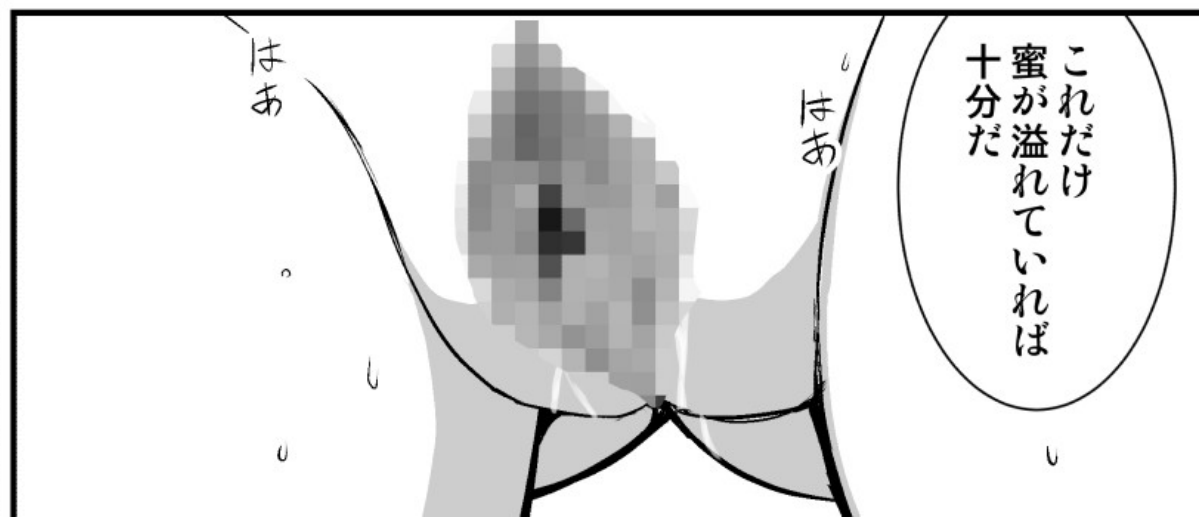
司祭様の  
舌が...

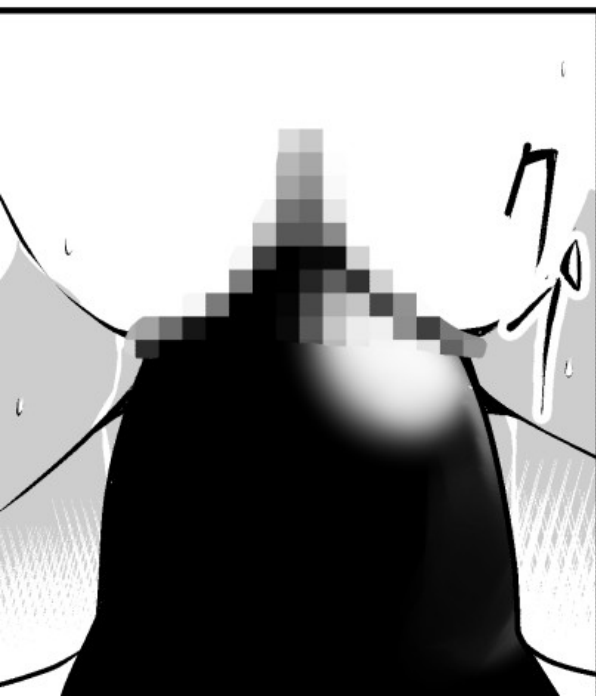
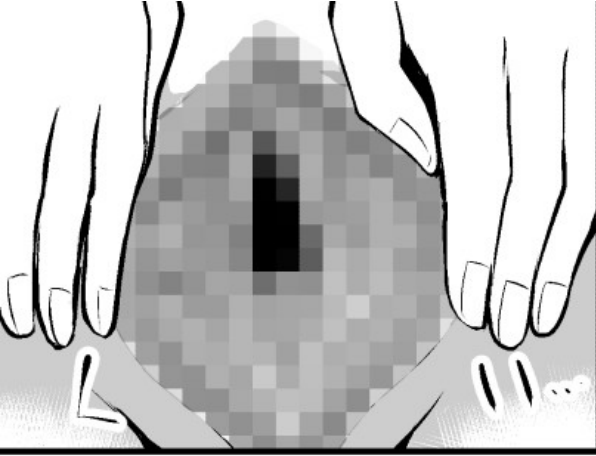
私の  
膣内に...

ちやうど  
ちやうど  
ちやうど  
ちやうど  
ちやうど

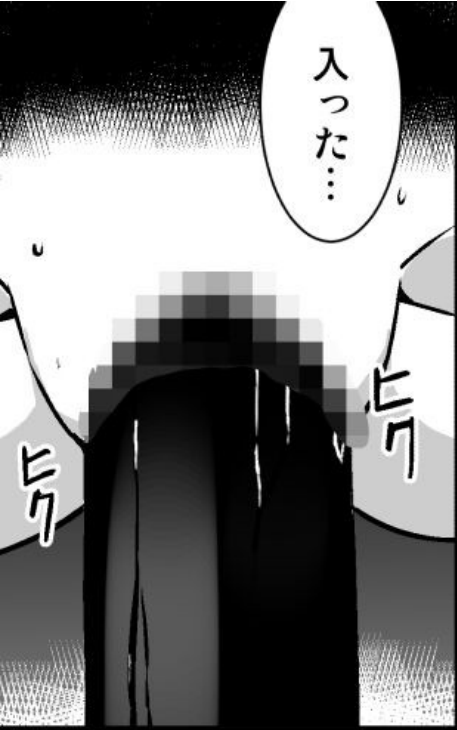
ふっ

ちやうど  
ちやうど









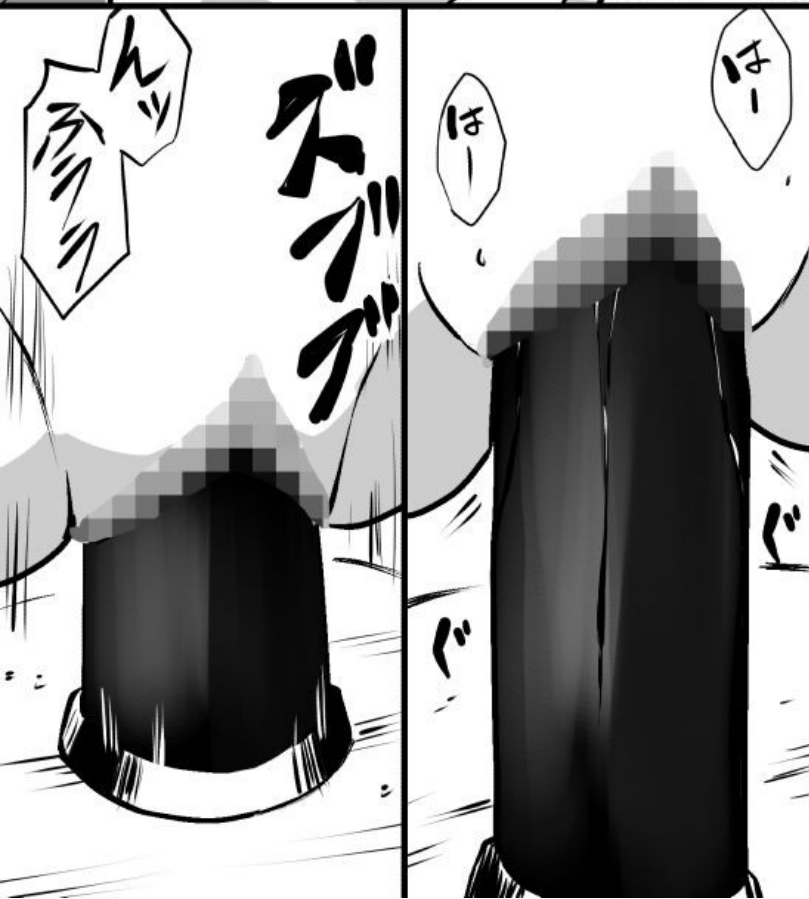
入った…

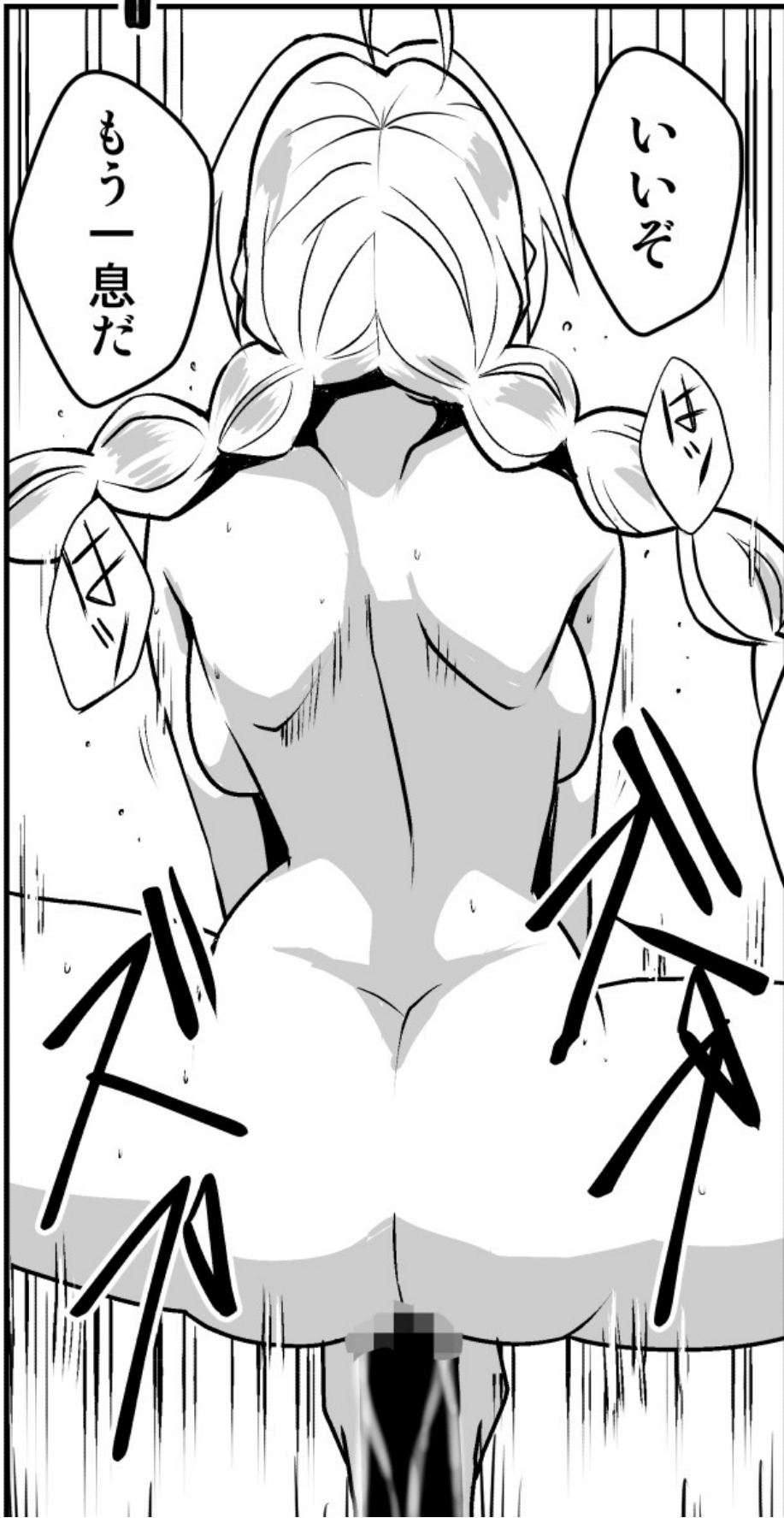
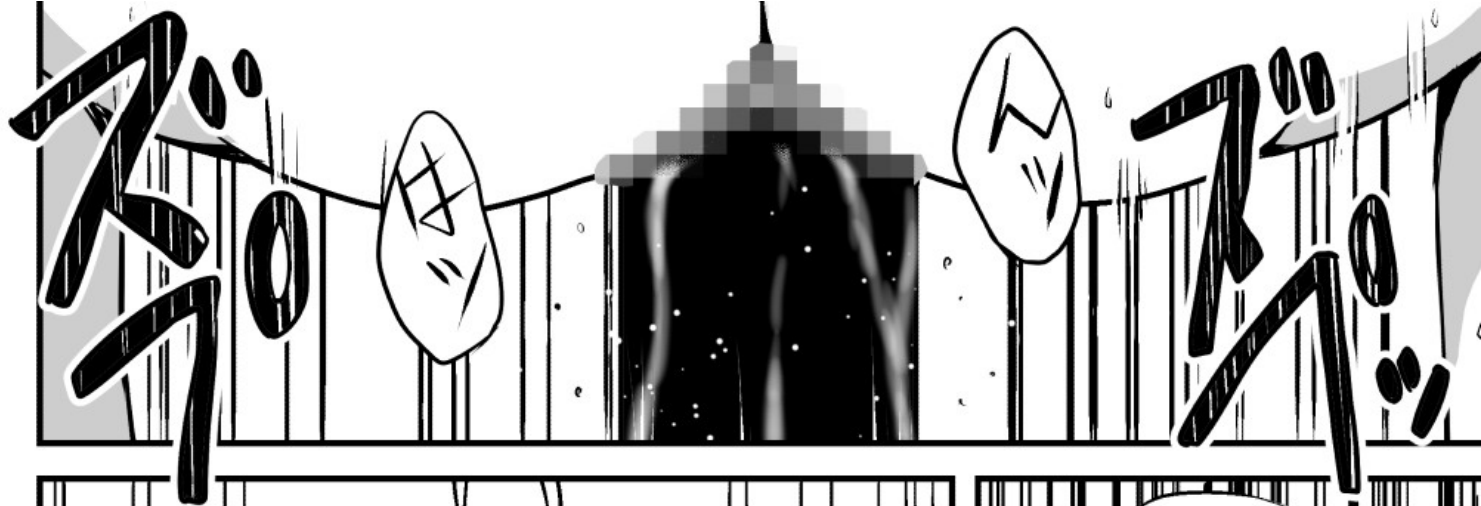


君の膣から溢れる  
愛液でそのマラを  
清めるんだ



腰を上下に  
動かさなさい





もう一息だ

いいぞ



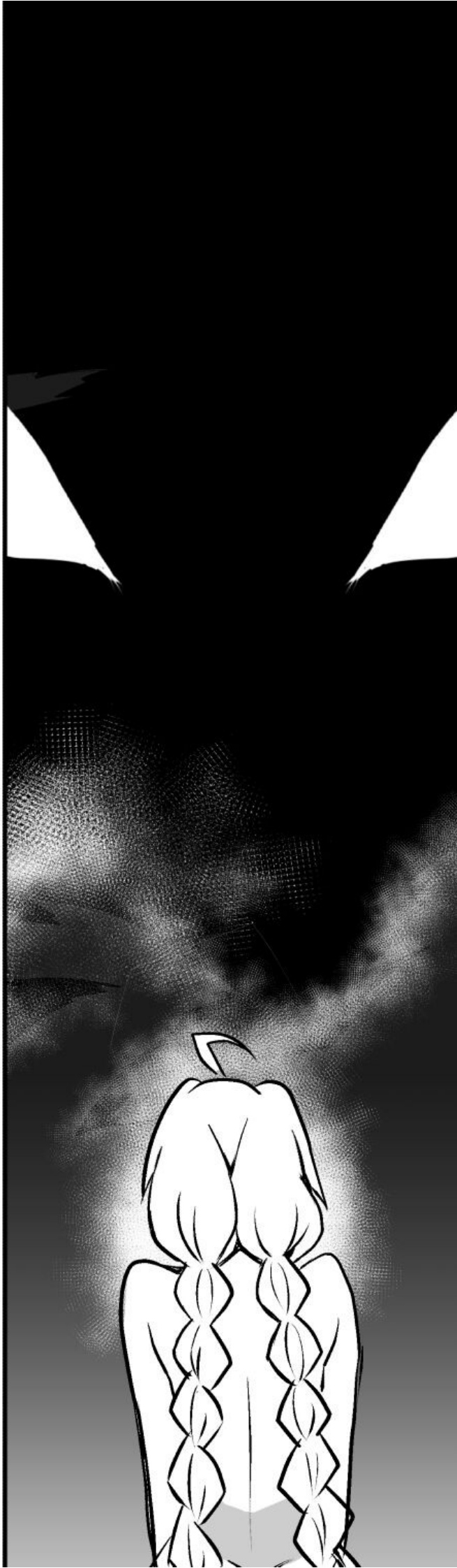
そうだしっかり  
腰をおろして

もっと深く  
もっと奥まで



封印が  
弱まってきたぞ  
今だ力いっぱい  
腰を振って



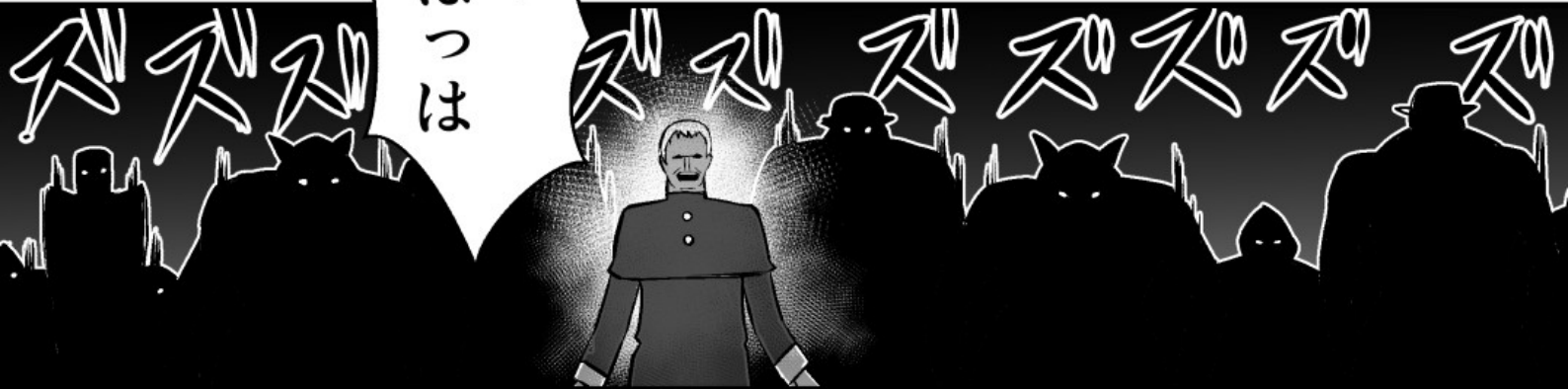




ここに封印されていたのは  
我らが魔王  
インビジブル様の魂だよ



あーっ  
はっはっは



早く…早く  
この事を誰かに  
伝えなきゃ…

そんな…



感謝するよ  
アリア

君のおかげで  
我が魔王の  
魂は解放された



おっと…



違う違う  
そうじゃない

残念ですが  
私は死んでも  
魔族に協力なんて  
しません



逃しはしない

君にはまだ  
利用価値が  
あるのだから

…コセ…

ヨコセ…

え…

ソノ身体ヲ…

ヨコセ…

ソノ身体ヲ…

我ニ  
捧ゲヨ

これは…  
魔王の声…？

何…

頭の中で  
声が響く

魔王の意志が  
私の中に  
流れ込んでくる



させないッ

そんな事

我を  
拒むか…

面白い

せいぜい甘美な声で  
悶えて我を楽しませて  
くれよ



狙いは  
私の身体!?

私の身体を  
乗っ取る  
つもりだ



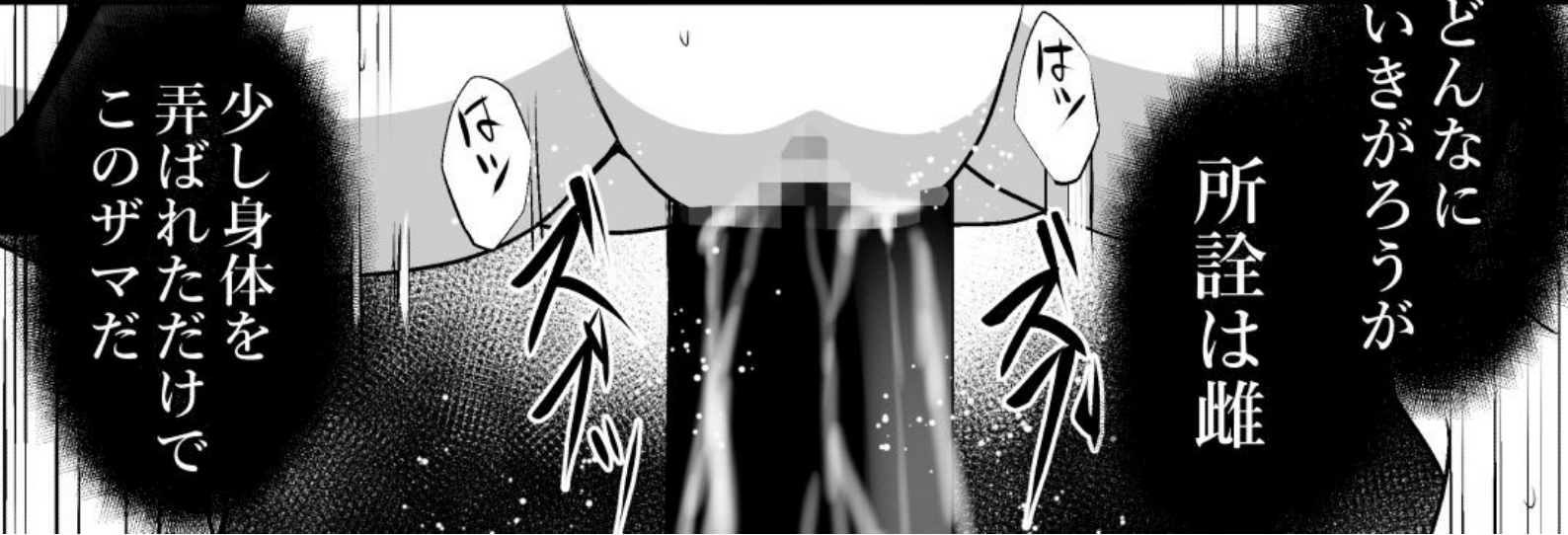
どうした？  
飛ばれているのに  
感じているのか？



どんなに  
いきがろうが

所詮は雌

少し身体を  
弄ばれただけで  
このザマだ



私は絶対

あなた達に  
屈服したり  
なんか…

しないん  
だからッ

負けない…

いつまで  
そうして強がって  
いられるかな

何を…



なに…

フクン

へ  
…

フクン



触手を通して  
何かが…

私の中に  
注がれてる…

頭が…

蕩ける…

意識が…

遠のいて  
いく…





ハッハッハッ

嫌なのに

嫌なのに  
なんで



ハッ



あへ

あへ

あへ

先程までの  
威勢の良さは  
どうした?

すっかり声が  
蕩けてしまっ  
ているぞ



こんなに  
気持ちいいのッ

イクツ

イクたく  
ないツ

イクツ

イクたくないツ

イクツ

イクたく  
ないツ

イクツ

イクたく  
ないツ

イクたく  
ないツ

イクたく  
ないツ

イクたく  
ないツ

消えたくはない……



消えたく  
ないッ

消えたく  
ないよお



快樂と  
屈辱に溺れて  
イってしまえ

さあ

イクツ

イクツ

イクツ

そうだ  
その顔が快樂と絶望で  
歪んだ無様な顔が  
見たかった







ご苦労  
だったな  
皆の者

魔王様の  
復活だ



